

## 第2回ふれあい自然観察会

### 「飛び立てオニヤンマ」 ヤゴから～羽化～成虫まで

花島伸美(千葉市)

日 時：2009年7月25日（土）9:30～12:30 天候：晴れ

参加者：大人42名、子ども46名 計88名、千葉市環境保全推進課2名

指導員：花島伸美、赤木光明、木下順次、後藤菊子、小林義和、佐野由輝、須田聰恵、竹内利子、武田宏子、生井幸男、山下美佐子、山田益弘

**観察コース**：昭和の森 太陽の広場→3コースに分かれて行動→菖蒲田→下夕田池

**概要**：夏の「ふれあい観察会」は、小学生を対象とした「夏休みトンボ教室」である。今年もたくさんの親子が捕虫網と虫かごを手に参加してくれた。中には、大人顔負けの虫捕り名人や毎年参加してくれる常連さんもいるが、初めてトンボを捕るという子もいた。

昭和の森には、約13種類のトンボが夏に見られるが、それは昭和の森に開けた明るい場所（太陽の広場）、暗い林縁、湧き水が流れる菖蒲田、広くて水草がある下夕田池と様々な環境があり、そこに生息するトンボの種類が違うからである。だから、その環境が保全されれば、産卵→ヤゴ→成虫という水と陸を駆けめぐるトンボに何時までも出会えることになる。

さて、参加者はまず、太陽の広場でウスバキトンボの群れに出会ったが、最初はこのスピード感あるトンボを捕まえることができなかつたが、時間をかけると一人、また一人とウスバキトンボを捕まえだした。最初にウスバキトンボを捕まえるとあとは、止まっている赤トンボは意外と簡単に捕まえられた。子どもたちは網を横から振るより、振り下ろす子どもの方が多かった。そして、網からトンボを出す時に嫌がる子どももいた。そんなことを繰り返しながら、だんだん班の子どもたち全員がトンボを見つけ、捕まえ、オスかメスか、何トンボかと言い合うようになってきた。新しいトンボを捕まえると、羽をチョキで捕まえて他の人に渡すことも上手になってきた。

そして、今回のハイライトはオニヤンマだ！ 朝捕っておいたヤゴを触ったり、観察した。毛深いとか、羽の元があるということがわかった。「小さい時は水の中を潜ったり、隠れたりしながら2～5年でトンボになるんだよ。」と話した。運良くちょうど見やすい位置に羽化直後のオニヤンマが止まっていたので、オニヤンマの成虫と羽化直後の成虫の目の色や羽の具合の違いも観察できた。また、中菖蒲田の至る所に羽化殻があり、その大きさや白い糸があることに驚いていた。下夕田池でも、ショウジョウトンボを観察したり、アオモンイトンボのオスと若いメスの色が違うことなどを確認した。

最後に、今森光彦著の紙芝居「トンボくんとなかまたち」を見た。シオカラトンボやオニヤンマが出てきて子どもたちは、直前に観察しただけに納得して頷いていた。子ども観察会は、子ども自身で体験したり、感じることを大人が温かく見守ることが大切だと思った。この観察会をきっかけに自然と親しんでほしい。

